



これは何でしょう



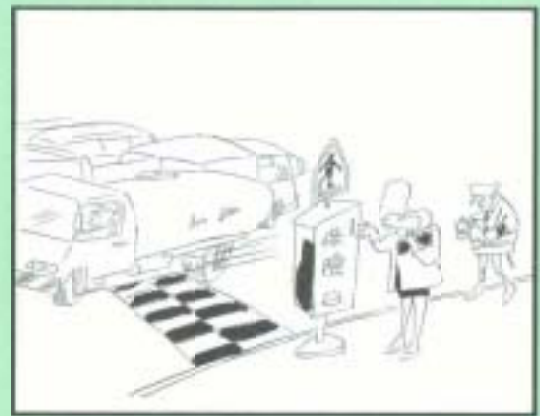
答えについての思い出などもお持ちしています。

- しめきり 5月13日卯必著
あて先 〒783 南州市大
挿甲二二〇一 南州市企画課
親子クイズ係
賞品 正解者の中から抽選で
5人の人に図書券を進呈
◎第188回親子クイズの答えは、
白菜(はくさい)でした。
第188回当選者発表(敬称略)
(応募総数31通)

☆ ☆ 思い出がいっぱい ☆ ☆

- スーパーで白菜の漬物を買
ながら思い出します。祖母に教
えてもらい、大きな樽に一緒に
漬けたことを...もう十七年
も昔になりました。(浜田 富美)
実家の畑にある大根、人参を
引っこ抜いて取ってくるのが好
きな息子です。白菜を取って
いると、「持っていく」と言い、
ヨッコラショと手に取るけれど
すこく立派な白菜でやっと思
上げられたくらいでした。(島井 陽平)
ロール白菜が大好きです。(西森 みさき)
小さい頃は、白菜・キャベツ、
レタスの区別ができませんでした。(橋本 加奈子)
冬の間に、味で楽しんだ白菜。
春になり今、菜の花で楽しんで
います。大人になり畑に出るよ
うになって、一般的に目に止ま
る菜の花は、主に白菜の花だ
ということに気が付きました。桜
の花に負けない菜の花と思いま
す。(柳瀬 啓恵)

南国画廊



横断保険
岩本 タケオ(金地)

みんなの 俳句

- 卵塔の林立権は実をこぼす 池知喜美子
かつて紀氏遊べる野に菜菔摘む 吉幸 岩城 鹿水
かがよへる野に菜菔つむ人散りし 田野下年寿
若菜摘む順路もありて紀子脚跡 河野 汎明
紀氏脚跡めぐる小流れ茶を摘む 河野 敦子
北江山を鳥鳴り越せる虎落笛 埴 玄澄
発掘の最中音積む塔礎石 高橋 以登
里人の患方に在りし紀氏脚跡 万季 高橋 鬼史
里人の松手入れする紀氏脚跡 内田 俊弘
待春の心に訪ひし紀氏脚跡 内田とし子
発掘の盛り土高く去年今年 田内賀代子
大いなる枯野つなぎぬ紀氏脚跡 小笠原ひろみ

第十二回土佐日記

門出のまつり 短歌・俳句入選作

二月十七日、比江 紀氏脚跡で行われた門出のまつりに合わせて募集されました短歌および俳句の入選作を紹介します。これらの作品は、紀貫之および国府史跡にちなんだもので、次の作が選ばれました。

- 短歌
實之の住みぬし跡はしづもりて 佐藤いずみ 選
楓の古木が辺りを統ぶる 山下ゆみ枝
冬うらら門出まつりの酒盛り 井上 孝夫
まほろばにひと世を励みし父母の墓 島本 研
聞ことますか實之朝臣このマッセージ 澤田千恵子
月の木の地名残れる対岸に 北村 常実
紀氏も仰ぎしまろき月出づ
まほろばにひと世を励みし父母の墓 島本 研
紀氏脚跡に向いて鎮もる
京の地に辿り着きたる夜も断くや 竹村 昭男
初春の雨にうるはふ内裏菜 町 あき子
いにしへ人の恋はしき想い俳ひくる 島田美津子
まほろば世子の漆の音きけば
冬うらら門出まつりの酒盛り 井上 孝夫
まほろばにひと世を励みし父母の墓 島本 研
紀氏脚跡に向いて鎮もる
京の地に辿り着きたる夜も断くや 竹村 昭男
初春の雨にうるはふ内裏菜 町 あき子
いにしへ人の恋はしき想い俳ひくる 島田美津子
まほろば世子の漆の音きけば
冬うらら門出まつりの酒盛り 井上 孝夫

俳句

- 池 禎翠 選
紀氏脚跡芝生を庇う善ぬくし 池知喜美子
北江山の静かに眠る姿かな 鹿水 吉幸
小正月懐きぐる国府跡 酒井 俊子
玄室を出て七草のひとつ摘む 藤原 博子
冬晴や此処に育てし老桜樹 汎明 汎明
剣き込んで本耕しを待つ比江野 清見 梅澤喜美子
立神の月溢れまじり紀氏脚跡 あきと 竹村 昭男
紀氏脚跡冬場史の中に佇つ 松村 郁子
實之の歌そらんじて枯一室 和泉えい子
實之の碑面過く冬日かな 晴美 西岡 晴美
比江山を高鳴り越せる虎落笛 埴 玄澄
紀氏脚跡過去暖めて濃き冬日 小松 富美
脚跡に身まてばつたの凍て終る 小松 富美
紀氏脚跡春はや金を拾ふ人 川村 雷子
発掘の盛り土高く去年今年 田内賀代子
紀氏の歌碑文字燃る冬の雨 乾 たづ
まほろばの里の広きよ若菜つむ 島崎 清忠
まほろばの屋敷跡なる小春風 小島 強子
紀氏脚跡へと流れゆく若菜摘 田野下年寿
初霜や紀氏脚跡の明らか 山下ゆみ枝
實之の碑をゆきぶりにて下朗える 石崎 雅男
風花や人かたまって門出の日 井上みつこ
枯れ極む国府跡の碑にあそぶ 猪原あやめ
紀氏脚跡影ながながと置く冬木 橋本龜登子
寒食の声湧ちたりし紀氏脚跡 八江 岩松 八江



- 實之の門出の里も冬夜 藤原 千鶴
寒夕焼風が棲みつく紀氏脚跡 吉松 信明
紀氏脚跡豊の若菜野に遊ぶ 平田しづ子
紀氏脚跡降り引き返し若菜摘む 川窪 美千
紀氏脚跡より引き返し若菜摘む 田野下年寿
紀氏の歌碑をぞりつつ読む冬日和 山下ゆみ枝
古例の紀氏脚跡まで若菜摘 克喜 中西 克喜
若菜摘む園が跡でふ叫たどり 儀定 上村 沙水
比江の山ひねもす去らず時雨雲 きよ女 橋本龜登子
實之の歌碑に冬芽の積きたる 茨木 玉江
紀氏脚跡はるけき野辺に香気積む 若松八江
早春の鳥声弾む紀氏脚跡 山中 覚
紀氏脚跡辺りの溝の芥を摘む 河野 峰子